

# 同友 やまがた

よい会社をつくろう／よい経営者になろう／よい経営環境をつくろう

08  
2014  
AUGUST

山形県中小企業家同友会  
月刊同友  
やまがた



## 2014年北海道東北 ブロック支部長・地区会長交流会

「入ってよかった、続けてよかった」といわれる同友会をめざして

### 中小企業振興条例学習会

「中小企業振興条例」は、地域の“経営指針書”

### 中同協 第46回 定時総会

地域と日本の無限の未来を切り拓こう!

そうだ、  
経営を楽しもう。  
だから、  
本気で向きあおう。

2014年度スローガン

# 「入ってよかった、続けてよかった」といわれる同友会をめざして



2014年北海道東北ブロック支部長・地区会長交流会が、6/26～27日の両日、天童ホテルにて開催され、北海道をはじめ東北6同友会、中同協から75名が参加しました。リーダーとして日常活動を支える支部長・地区会長が、魅力ある支部づくりと地域づくりのために互いの悩みや経験を交流し、役員になってこそ同友会の良さを体験し、広げていく役割があることを学びました。

### 「できるか、できないか」ではなく、「やると決める」こと。

第1日目は開催地より山形同友会の西塔代表理事、主催者挨拶を中同協副会長 佐藤代表理事(宮城同友会)の挨拶で始まりました。

最初の事例報告は、北海道同友会南空知支部 幹事長 渡辺美智留氏(岩見沢液化ガス㈱ 代表取締役)が、「踏み出そう、明日を創る新たな一歩」と題して報告。後継者として入社し、社員との関わりから、「社長」の椅子の重みを知ります。そして、リーダーとし大きく変わったのが、昨年(2013年)、全道経営者“共育”研究集会の実行委員長を務めたことでした。南空知支部は、北海道の中でも一番小さい支部。「できるか、できないか」ではなく、「やると決める」こと。小さな支部の挑戦は、道研前日に会員拡大目標90名を達成させ、支部会員参加率67.5%と「本当に同友会らしい道研」と嬉しい評価をもらいました。

中同協の国吉さんに、「同友会のための活動をなさってはいけない。会社のために、自分のために一生懸命やってください。それが同友会です」と、経営と同友会は不離一体であることが最も大きな学びだったといいます。同友会の3つの目的こそ、支部活動の原点。原理原則に立ち返り、会員同士が知り合うことで一体感が生まれ、強い仲間ができた取り組みに、トップリーダーの心意気に元気をもらいました。

### 「入ってよかった」といわれる、明るく元気で楽しい支部をめざして

第2の事例報告は、地元さくらんぼ支部の前支部長の及川忠幸氏が「明るく元気な支部をめざして」と題して、人が集まる支部活動の魅力を語りました。

及川氏は支部設立時に入会したものの、約5年間休眠状態。支部に深く関わるようになったのは食品事故で倒産の危機にあったとき、支部仲間の温かい支えがきっかけでした。順調に推移し会員数が50名というときに会員数が減り始め、例会参加者が数名と支部解散の危機に直面します。山形支部から3名の支部移籍があり、新しい風が入ったことで、「同友会に入ったら会社をよくしよう」

そんな雰囲気広がりました。「企業変革支援プログラム」を活用した例会、会員を巻き込んだグループ長研修の実施で、経営の本質に迫る例会へと進化させてきました。

会社も同友会も同じ。今年度、60名をめざしているさくらんぼ支部、元会員さん、なかなか例会に参加できない会員さんをフォローし、顔と顔がよくわかり、「入ってよかった」といわれる、明るく元気で楽しいさくらんぼ支部づくりはまだまだ続きます。

引き続きグループ討論では、各地同友会の活動交流を深め、支部役員の手をどう引き出すか、何の為に増強をするのかと深い議論が続きました。



全体会議のまとめで、中同協 守副会長(北海道同友会代表理事)が、「同友会に入ってよかった、続けてよかった、おかげで会社が良くなった」といわれる同友会づくりを強調しました。

参加者からは、「支部長クラスの学習会で、こういう学びが同友会本来の姿だと思った。秋田同友会の方と2次会を一緒に、ずっとグループ討論の延長戦で、経営指針の話ばかりだった。同友会にどっぷりとつかった仲間意識の強さ、学ぶ姿勢を感じた」「北海道東北ブロックの同友会理念の体現者、体現者たらんと日夜奮闘している同友とごく身近に接し、学び合える場はそうそうありません」と学びの深さに感銘を受けた感想が寄せられました。

第2日目は、王将果樹園でさくらんぼ刈り、㈱アイ・タックルのトマトハウス、最上紅花畑を見学し、紅山水で昼食をとり終了しました。

## 中小企業振興条例学習会

# 「中小企業振興条例」は、地域の“経営指針書”

山形同友会の地域活性委員会主催で、7月18日に中小企業振興基本条例学習会が開催され、山形同友会会員、県・市議会議員、行政、金融機関の方52名が参加しました。「憲章・条例推進月間」として、全国各同友会でも取り組まれました。



## 5年後、10年後の我が社と地域の元気戦略を描こう



講師に中同協 副会長 国吉昌晴氏を迎え、「5年後、10年後の我が社と地域の元気戦略を描こう」のテーマで講演をいただきました。

2010年に閣議決定された「中小企業憲章」が制定されるまでの同友会の運動に触れ、「中小企業こそ日本経済の柱であること」を国政の場でうちだしたことを強調。地方自治体では「中小企業振興条例」として、墨田区や帯広の条例などを紹介し、全国でかつてないテンポで制定運動が広がっています。山形県では2012年12月に制定されております。

なぜ、条例が必要なのか、自社の経営と地域の関わりなど、産学官連携の取り組み、条例制定の定石（実態調査、条例制定、推進組織）、地域の潜在する可能性を探る取り組みなど全国の先進的な事例を交えてお話を頂きました。

国吉氏は人口減少や地域経済の活性化が大きな課題になっていると指摘し、大企業の誘致が現実的に難しくなり、むしろ撤退する事例が増え、誘致だけでは地域経済の活性化が出来ない状況になってきています。1979年に初めて条例が制定され墨田区では、大企業の下請けとして発展してきた町工場が衰退し、条例の制定により急速な発展にいたりました。条例の意義は地域の戦略的な課題が盛り込まれ、地域経済の発展には不可欠です。

1999年の中小企業基本法の改定により自治体も中小企業政策に対して責務を有することになりました。私たち中小企業は、条例に基づく施策・支援を有効に活用し、新しいネットワークづくりで地域に発展をもたらし、地域になくてはならない企業をめざしていく強い意志が必要で、地域を活性化させる企業としても大きく発展していくことが責務となります。雇用を守り、働きながら子育てができる環境をつくるなどあらゆる努力が必要です。

最後に、高齢化・人口減少社会への突入した今、条例は地域の経営指針（理念、方針、計画）だと強調し、山形同友会への新たな可能性と期待、自治体への期待を述べました。

10年後、30年後の山形をどう描くか、未来ある山形をめざし、産学官金民が一体となり活性化していかなければなりません。

私たち中小企業は、条例を自社の発展にどうつなげていくか。中小企業の役割に誇りを持ち、条例を理解し、自社の経営に活用し実績を残していこうと思いました。

今回の学習会には、自治体職員、地方議員、金融機関より28名が参加し、運動の広がりや今後の連携につながる機会となりました。（文責：地域活性委員長 越前屋忍）



# 地域と日本の無限の未来を切り拓こう!



7月10、11日、新潟市朱鷺メッセに於いて、中小企業家同友会全国協議会第46回定時総会が、「地域と日本の無限の未来を切り拓こう!～エネルギーシフトを中小企業の手で～」をスローガンに、開催されました。

当日は台風の接近に伴う交通の乱れが心配されましたが、全国から1106名が参加しました。山形からも9名が参加し、17の分科会で学び合いました。

参加された方々より報告が届きましたので、ご紹介いたします。

## 第1分科会「変革と継承」

サンシステム開発(株) 代表取締役 中村友祐

第1分科会の報告者は中同協 顧問の田山謙堂氏、相談役幹事の赤石義博氏。両氏共に同友会の王道とも言うべきお二人のご報告でした。ご存知の方はご想像の通りです、時間はあっても足りない程の報告内容です。

まず感想ですが、とても奥深い報告内容である事は言うまでもありません。まさに労使見解が経営の根幹であると同時に生き方そのものである事を再認識いたしました。経営も人生も日々修業と気付きの連続です。何を気付き、何を実践していくのか、自分自身に問われるような報告と分科会に参加できて感謝するばかりです。もう二度とこのお二人のコラボレーションは実現されないと思われますので貴重な体験であったと思います。

さて、自身の学びのポイントは対等と平等についてでした。皆様は対等と平等について社員や部下にどのような説明をしますか? 労使見解の言葉ひとつひとつを自社の経営に、行動に落とし込んでいますか? またそのような経営指針書になっていますか?

全国的な課題として、経営指針はできたが社員との共有がまだまだできていないという点が大きなポイントでした、山形同友会での同期会や修了生同士の自発的なセミナーは他県の取り組みからみても十分に実践されていると感じたところです。



また、グループ討論ではグループ長の準備の素晴らしさに感動しました。両氏の報告は議案書の第1章第1節1と第4節1・・・と総会議案書と密接につながっていましたが、関連議案を要約した資料とさらに実践に向けたアンケートを準備しておりました。討論をより具体的に進めるためのツールとなりました。全体的に気付く事ばかりで大変有意義な総会となりました。

小職も会歴10年となり、全国の同友の仲間も増えました。同友会というだけで平気で悩みや課題を言いあえる環境、つながりは同友会ならではです。全国行事は運営も含め学びも多く、さらに深いものがあります。機会があればぜひご参加して下さい、きっと何かを持ち帰ってこられます。

## 第6分科会「共同求人」

寒河江物流(株) 代表取締役 後藤智樹

久々に全国行事に参加しました。参加分科会は6分科会で共同求人をテーマにした報告でした。報告者は、富

山県で温泉旅館や飲食店を経営する三楽園グループの坂井社長で、新卒採用により会社が変わっていく姿を報

告していただきました。

富山県は早くから共同求人に取り組んでおり、進んでいるのですが、印象に残ったのは、

- ・今は環境が整っていないから、それを整えてから新卒を採用しよう、なんて考えているうちは永遠にできない。
- ・新卒を採用するということは人生を預かるということなので、さらに社長の責任と覚悟が必要になる。
- ・新たな社風を作ることと、指針・求人・共有の三位一体の実現は、新卒採用から始まる。

ということでした(まだまだ他にもありますが)。

グループ討論でも、

- ・新卒採用を行っている企業は、ほとんどが環境が整っていないとも新卒採用に踏み切っていた。
- ・覚悟決めて踏み切らなければ、会社は変わらない。
- ・自分(社長)より優秀な人を採用すると経営が楽になる。
- ・育てる人が一番育つ。



等、活発な意見交換がされました。

まとめとしては、新卒採用は、その人の成長はもちろんですが、既存社員を育てるために行うということでした。共に成長すれば企業も繁栄する、また、若い人材が定期的に入社するので、永続にもつながるということです。

私も、新卒採用を考えていましたが、今回の分科会に参加して改めてその重要性を認識しました。きちんと計画し、実行に移します。

### 第3分科会「経営者の責任」

(株)長沢建設 代表取締役 長澤 武



私には、山形で行われた青全交以来2回目の全国行事となりました。

参加した分科会は、日本ジャバラ工業(株) 田中社長の「企業の信用を創造し、なくしてはならない企業へ～いかなる環境変化にも対応できる企業づくりと経営者の責任～」というテーマの報告でした。

- ・企業には、社会的責任と人間的責任がある。
- ・経営者が良ければ、良い会社になる。全て社長の責任である。
- ・利益を必ず上げること。利益を上げない会社は社会貢献できない。その利益をどうするか?→自己資本率を上げる。

リーマンショックで32億の売上が13億になり、1億の赤字になった。その時、無駄な営業をやめさせ、勉強会を

行った。なおかつ、給料とボーナス2.5ヶ月分の支払を約束した。なぜこんなことができたかといえば、自己資本率はその時60%ぐらいあったからできた。

- ・経営計画書+社員教育で大丈夫と思ったら赤字になった。それは戦略がないから！  
能率主義(合理的)ではなく、効率主義(収益力)でなくてはならない。
- ・阪神大震災で学んだこと(メイン、準メインバンクの破綻を経験)として自己資本を厚くするお客の信用の創造(自社の発信)。

材料や部品の供給が1ヶ月滞ると、他社からの納入に切り替わる。その前に納入出来るようにする必要がある。協力してもらえる会社と資金の手当て、そして何より客先への状況の報告(大丈夫というアピール)が大事。

グループ討論では「経営者の責任」というテーマでした。その中で、経営者は幸せでなければならないという意見がでました。自分に「幸せか?」と問われたらなんと答えて良いのか悩んでしまいました。

普段の例会とは全く違った雰囲気の中、やはり全国大会は刺激があり楽しいと思いました。他県の方との交流は、自分の巾を広げる良い機会であり、是非参加されることをお勧めします。



社員共育委員会主催で、「管理者向けメンタルヘルス学習会」を6月19日に、ビッグウイングで行いました。会員企業の経営者、幹部社員、学生など43名が参加しました。

講師に、山形産業保健総合支援センターのメンタルヘルス対策促進員 遠藤促進員をお招きし、「職場における心の健康づくり」と題して、メンタルヘルス不調を予防し、元気に働いてもらう環境づくりを学びました。

はじめに、「ストレス」と「自殺」について現状把握をしました。ストレスを感じる社員は年々増加傾向にあり、ストレスが引き起こす健康障害も増加傾向にあるといます。

その後、メンタルヘルスの基本的な考え方について学びました。基本的な考え方は何よりも「予防」にあると強調しました。

会社経営に置き換えると、①従業員の幸せを考えた経営、②人を活かす人事管理、③健康で明るい職場作り（心と体の健康づくり）を考え、「支えあうチーム」という認識が必要ということでした。

次に事業者の安全配慮義務について学びました。労働契約の法令を遵守する必要があるとメンタルヘルスと企業責任の重要性を学びました。

次に近年最も多いうつの原因、パワハラについての説明がありました。

①人間尊重を基盤とした風通しの良い職場風土づくり

【基本:人権・人格を認めしっかりとコミュニケーション】

②役割認識の明確化と報・連・相の徹底

【基本:仕事を通じた信頼関係醸成努力】が必要であると説明を受けました。

最後にストレスゼロを目指すのではなく、「ベストストレス（最も能率の上がる）」を考える事が重要だということを教えて頂きました。

また、「自分の健康は自分で守る」という考え方を理解し、心の健康のためのセルフケアの紹介もあり、働きやすい職場風土づくりが基本であることを改めて考えさせられる学習会でした。  
(文責:社員共育委員長 阿部和人)



## 新会員紹介

### ◎佐野 峻也氏

(株)さのや  
業種 酒類卸・燃料販売・不動産賃貸業  
山形支部

### ◎阿久澤 透氏

(株)リノベース 代表取締役  
業種 建築リフォーム工事業  
さくらんぼ支部

### ◎伊藤 博幸氏

協立工業 代表  
業種 アルミ手摺製造、一般建築  
金物既製品取付販売  
さくらんぼ支部

### ◎大山 和宏氏

(株)シオン 代表取締役  
業種 建築リフォーム業  
さくらんぼ支部

### ◎笹原 久美子氏

(有)笹原不動産 代表取締役  
業種 不動産仲介業・管理  
さくらんぼ支部

### ◎伊藤 隆芳氏

セカンド・オピニオン(株)  
代表取締役  
業種 住宅ローンコンサル  
ティング業務  
さくらんぼ支部

### ◎池野 寿登氏

(株)シエスタ 代表取締役  
業種 サービス業  
さくらんぼ支部

### ◎根本 江い子氏

城南技研工業(株) 代表取締役  
業種 通信機器の  
プラスチック部品製造  
さくらんぼ支部

### ◎日下部 弘美氏

カフェレストラン隠れ屋262 代表  
業種 飲食店  
さくらんぼ支部

### ◎前山 幹雄氏

エール不動産 代表  
業種 不動産業  
置賜支部

### ◎安部 正彦氏

(有)寄清堂印刷 統括部長  
業種 印刷全般及びホームページ制作  
置賜支部

#### 支部・会員名・企業名・役職変更

●(有)そば処庄司屋(山形支部)  
専務 庄司信彦氏⇒代表取締役 に変更

●ふるさと山形(株)(山形支部)  
常務取締役 安達由紀子氏  
⇒代表取締役 山口秀夫氏 に変更

# 8月例会のご案内

・どの支部の例会にも参加できます。・月に一度は参加しましょう。

## 庄内支部

### 海と花火を観ながら楽しむビアパーティー

2014.8.20 (水) 18:30~21:00

場所：湯野浜温泉 愉海亭 みやじま  
鶴岡市湯野浜1-6-4 ☎0235-75-2311

参加費：4,000円 (ビアパーティー代+温泉)

※宿泊：+12,000円 (2次会費用+朝食付き)

☆送迎バスを準備致します。

◆17:30発 鶴岡市役所 ◆17:45発 南大山ボデー

～リニューアル店舗を見て、感じて、自社に活かす～

夏と言えばビアパーティー!!ということで、今年も恒例のビアパーティーを開催致します。今回のビアパーティーを通じ、会員同士、ゲスト様との懇親等を深め、海と花火を観ながら語り合い、温泉でリフレッシュしていただきたいと思いを企画しました。また、会場である「湯野浜温泉 愉海亭 みやじま」さんは、この夏にリニューアルオープンしたばかりであり、合わせて渡会社長の想いも学びたいと思います。この機会にどなたでも参加できますので、ゲスト様をお誘い合わせの上ご参加ください。ご多用の中かとは思いますが「働くときは働き休むときは休む!」メリハリを付け、このビアパーティーでリフレッシュし明日への活力にして頂ければ幸いです。多くのご参加お待ちしております。

## 寒河江支部

### 明日を拓(ひら)く経営のポイント

今はきびしくても3年後輝いている会社へ クイズ10連発

2014.8.25 (月) 19:00~

場所：寒河江市技術交流プラザ

寒河江市中央工業団地153-1 ☎0237-86-1991

講師：(有)奥山経営センター 代表取締役 奥山 享氏 (税理士)

「isoがしいけれども、儲からない」という声をよく聞きます。「そのうち景気がよくなれば商売も上向くよ」なんて考えている方の3年後はどうなっているのでしょうか?寒河江支部8月例会では、「気合と根性だけでは厳しい競争の時代は乗り切れない。原理原則に基づいた意思決定が必要」と語る奥山享税理士を講師に迎えます。クイズを交えた講演で「儲かっている要因は何か」「儲かっている要因は何か」「そしてそれは続くのか」といった自社の現状の姿を明らかにし、3年後輝いている会社になるための課題をつかみます。

今の時代、必見です。お誘い合わせの上、是非ご参加ください。輝く会社をめざして学び合ひましょう。

## 置賜支部

### 変化の時代に最適な企業を追い続けて ～顧客の要求にどこまで応えられますか～

2014.8.26 (火) 18:30~

場所：伝国の社  
米沢市丸の内1-2-1 ☎0238-26-8000

報告者：(有)プラス電子 代表取締役 小川栄一氏

大手企業の技術部門に勤めていた経験から「製造業の海外移転が進む」ことを感じていた小川氏は、大量消費ではない産業用の部品製造でいくことを決め創業。始めは全ての仕事を受注し、その中から採算がとれる仕事を続けると同時に、それに合った最適な社内体制をつくってきました。クレームをきっかけに採算が落ちるが検査体制をかえ、お客様の求めるニーズに合わせた取り組みを実施しています。

自らが教育された「基本を大切にすること」を社員さんに伝え、従業員だけで会社が運営できることをめざす小川社長の報告です。お誘い合わせの上、ご参加ください。

## さくらんぼ支部

### 本業を離れず、新たな事業展開で活路を見出す

2014.8.28 (木) 18:30~

場所：さくらんぼタクトクルセンター  
東根市中央1-5-1 ☎0237-43-1155

報告者：(株)さとう電熱

代表取締役 佐藤弘康氏 (寒河江支部長)

通信兵だった祖父がラジオの販売・修理業を始め、その後、街の電気屋さん、電気工事業へと業態を変えていく。父の時代に電気工事業として確立。緊急時にすぐ対応してきたことで、地域になくはならない企業になっていた。佐藤氏は1998年に23歳で入社。仕事が徐々に減り始めた時期で、ある日、「今日は電話がないなあ…」と社長。「えっ、電話が来ないと仕事が無い会社なの?」と危機感を持つ。事業承継したもの方向性が見出せないでいたとき、同友会で経営指針を作成。本業を離れず、イルミネーション、融雪事業、薪・ペレットストーブと事業領域を拡大してきた。地域の暮らしや産業を支え、企業を存続・発展させていくことが、三代目経営者の使命と語る佐藤社長。

今いる社員、これまで培ってきた資産(技術力、信用)を活かして、これからの方向性を語ってもらう。

## 山形支部

### 変化を恐れず受け止めたきっかけは、上司からの「信認」 ～天職のデザインを手放し管理職へ～

2014.8.28 (木) 18:30~

場所：山形ビッグウイング 4階研修室  
山形市平久保100 ☎023-635-3100

報告者：(株)フロット 取締役 五十嵐久仁子氏

山形支部8月例会は、(株)フロット取締役 五十嵐久仁子氏より、「変化を恐れず受け止めたきっかけは、上司からの「信認」～天職のデザインを手放し管理職へ～」のテーマで報告です。五十嵐氏は契約社員として入社し、正社員そして幹部社員までの道のり、またはデザイナーからマネジメントへの転換のきっかけを「信認」であったと語ります。「ここでやるしかない!」と覚悟を決めた五十嵐氏の、仕組づくり・部下の育成等の現在の仕事を交えた報告となります。社員共育に興味のある方は是非ともご参加ください。また社員・ゲストさんもお誘いあわせの上ご参加ください。

後藤副代表理事が議長を務め、西塔代表理事の開会挨拶で始まり、はじめに、西塔代表理事より、中小企業家しんぶん(6/5)中同協定時総会の議案書の方針案(第4節同友会づくり 役員・事務局の連携強化で、強い組織の同友会づくり)を読みあげて紹介し、事務局員をパートナーとして同友会運動を進めようと述べました。

議事は下記のとおりです。

#### ■報告事項

- 1) 第17回女性経営者全国交流会(6/5 熊本 庄司氏、赤塚氏参加)
- 2) メンタルヘルス学習会(6/19 53名参加)(阿部理事)
- 3) 同友会規約等検討委員会は、盆明けにスタートし12月までに作成する予定。(青柳副代表理事)
- 4) 2014年度第1 四半期決算報告と第1 四半期の会計、業務監査について報告(伊藤事務局長)

#### ■承認事項(入・退会承認) 11名入会4名退会

7/9日現在会員数 412名

#### ■討議事項

##### 議題1:北海道東北ブロック支部長・地区会長交流会の件

実行委員長の青柳副代表理事より、参加者も70名を超え、事例報告から学んだ点を紹介し成功裡に終了したと報告があった。収支報告は次回理事会で提案する。

また、次年度から、全県行事のひとつを各支部の持ち回りで担当することが提案され、検討していくこととなった。

##### 議題2:第1回増強月間の取り組みの件

安藤理事より、理事会前に開催された「第3回組織委員会」の報告があり、第1回増強月間の取り組みについて、前回理事会以降、32名から175名の対象者の紹介があり、情報を共有し活用してもらいたいと依頼があった。また、下記の点が提案され、決定した。

- 1) 最上支部プロジェクトチームが決定。リーダー齋藤氏・安藤氏・水沢氏・奥山氏・高橋(進)氏(※さくらんぼ) 事務局 矢作予定。
- 2) 同友会パンフ作成プロジェクトチームが決定。(リーダー佐藤弘康氏・西塔氏・水沢氏・木村氏・阿部氏・事務局 高橋)
- 3) 新会員オリエンテーションを7月23日開催。
- 4) 支部所属について、原則として、会社もしくは自宅がある所の支部に所属することの提案が出され、承認された。
- 5) 組織委員会補正予算は、次回理事会で検討する。
- 6) 各支部の増強活動の報告

##### 議題3:中小企業憲章、条例学習会の件

齋藤専務理事より、参加状況の報告と参加動員の依頼があった。当日の役割分担を確認した。

##### 議題4:第12回経営研究集会の件

実行委員長の大場理事より、開催日時・会場・記念講演の講師、第1次予算(案)が提案され承認された。日程は下記のとおり。

・日時:11月18日(火)午後1時30分~午後9時

・会場:ホテルメトロポリタン山形

・記念講演:榎本田商会 社長 本田哲氏(北海道同友会)

7/29~30日、記念講演の講師との打ち合わせのために、大場実行委員長、齋藤副実行委員長が北海道を訪問する。

##### 議題5:「外形標準課税適用拡大」反対への対応について

西塔代表理事より、同友会の活動を知らしめていくために、他団体との連携、政党への働きかけや報道機関に取り上げてもらうなどの取り組みの提案があり、山形同友会としてどう働きかけていくかが課題として出された。

中同協の第1回幹事会(7/11)で、全国で反対署名運動の取り組みを要望することを決定。

##### 議題6:山形新聞購読者拡大協力の件

青柳副代表理事より、山形新聞の「提言」欄に掲載してもらうために、同友会として山形新聞購読者拡大の協力の提案があり決定した。全会員にe.doyuで告知する。

##### 議題7:金融商品「マルプロ」商品および商品名の使用可否の件

伊藤事務局長より、きらやか銀行と新潟同友会村上支部の業務提携するにあたり、商品名「マルプロ」の使用の申し入れがあり、承諾することが決定した。

##### 議題8:山形刑務所社会復帰の講義依頼 継続審議

##### 議題10:事務局給与規定・パート就業規則の件

西塔代表理事より、事務局給与規定、パート就業規則のポイントを説明し次回理事会で審議することになった。

##### 議題9:レーザープリンター購入の件

伊藤事務局長より、プリンターの故障により、新しいプリンター購入の件が提案され決定した。

#### ■その他

- 1) 第46回定時総会(7/10, 11 新潟)の参加の件 目標:10名  
参加予定者:西塔代表理事、中村代表理事、安藤理事、奥山理事、後藤理事、佐藤(知)理事、玉津理事、長沢理事、事務局伊藤(9名)
- 2) 東北食と農の見学交流会 in 秋田(7/24~25)の参加の件
- 3) 第42回青年経営者全国交流会(9/18~19 in 奈良)  
参加目標:5名
- 4) 第5回理事会の開催日程について  
●日時:8月12日(火)16:00~18:00  
●会場:同友会事務局

#### ■閉会挨拶 中村代表理事

★被災地陸前高田への4度目の訪問。忘れられない、忘れてはいけない3・11と猛暑の夏。山形大学との連携授業で、陸前高田の高田自動車学校を訪問した。大学生26名を含む29名が参加した。見る街の風景は毎年変化し、ベルトコンベアーと10メートルを超えるかさ上げ工事はまるで街全体が工場のように。海が見えなかった。★この日も岩手同友会の田村社長、河野社長に震災時と地域への想いを語ってもらった。2011年6月、震災後初めて訪問した時、「けせん朝市」ができ、国連の支援でつくられた災害用テントの中はうだるような暑さで、それでも多くの人が集まり、「生きていたか」「見つかったか」と会話が行き交っていた。★命が救われた救援物資。だが、「街の復興

のためには、早く商店を復活させなければ」。震災から2ヶ月が経ち「そろそろ新鮮な魚が食べたい」「賑わいがある自分で選べる店が欲しい」など切実な声もあがり、自分たちの手で開いたこの「あさ市」は特筆すべきことと田村社長は強調する。★まだまだ、仮設住宅で暮らしている人がいるなかで、街の復興は8~10年後、いつ自分の家を持てるのだろうかとじっと我慢してまってくる人がいるだろうかと投げかける。人間としてあたり前のことを取り戻したいのだ。この陸前高田の取り組みから、本当の危機は人間の尊厳が失われることなのだと感じた。千年先の子どもたちのために、今、私たちができることは何か、自分の果たすべき役割を考える。(由)

